

新庁舎と（仮称）新福祉社会館の複合化によるメリット

1. 機能に関するメリット

■より「市民のための庁舎」に

- 市民サービスの中核を担う市庁舎と地域共生の拠点たる（仮称）新福祉社会館を同じ土地に建設することは市の総合的サービス提供の基盤を整えることにつながります。
- 案内から相談窓口、各課窓口を適切に配置することにより、生活上の相談から申請手続、申請手続の中で生じた相談への対応、双方を「入口」とした市民ニーズに対し相互の連携が取りやすくなり、市民サービスの向上とともに円滑な事務執行が可能となります。
- 市庁舎、（仮称）新福祉社会館とも想定される1階エントランスホールを広い共用部とすることにより、情報発信・展示などの豊かなイベントスペースを創出することができます。
- 複合化により市職員と市民が触れ合う機会が多くなり、市民サービスの向上とともに市職員の意識向上にもつながります。

■新庁舎基本理念のバックボーンの強化

- （仮称）新福祉社会館の基本的な機能「保健福祉の総合的支援の充実」、「地域における多様な交流や活動の推進」、「参加と協働による地域福祉活動の推進」は、「きずなを深めるノーマライゼーション」、「市民に分かりやすく便利」という新庁舎の基本理念にある2つのバックボーンをより強固にできます。

■新たなまちおこしの拠点として

- 小金井市都市計画マスタープランにおける「にぎわいと交流を誘導するゾーン」、「新たなまちおこしの拠点」に位置する貴重な土地について、土地利用効率を向上させつつ多世代、多目的利用を図ることができます。

2. 管理に関するメリット

■施設の運営管理

- 複合化することによって、施設の維持管理、運営管理等の一元化により、維持管理の効率化、面積の削減が期待できます。

	単体	複合
施設運用の難易度	一般的に易	一般的に難（シャッターなどにより区分可）
各施設の整備年度自由度	高い	低い
共用部の効率化	低い	高い
市民サービス	非効率	効率的
市民コミュニティの形成	やや難	向上

3. 設備等縮減によるメリット

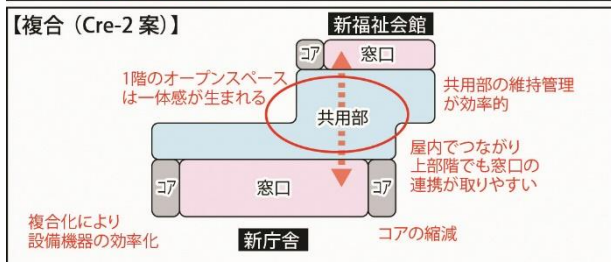
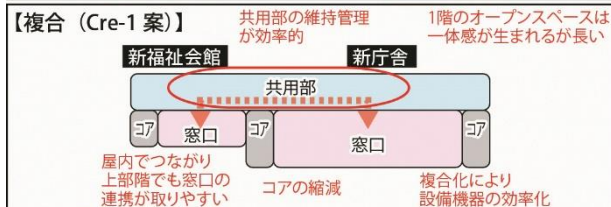
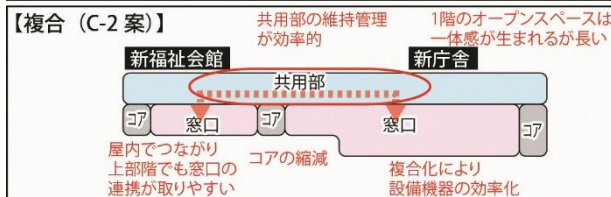
■建設コスト

- 複合化の方が高効率に建築できるため、土地利用効率を高めることができます。
- 中央監視や各設備機器について、施設毎に整備するよりも、1施設にまとめて整備するほうが効率的であるため、イニシャル・コストを低減できます。
- 単体の場合、空調設備、受変電設備、非常用発電機は、それぞれの施設に必要なようになりますが、複合にすることで共有することが可能となります。
- 給排水設備、消火設備は、単体・複合ともに台数に変更はないが、施設に一定の離隔がある単体に比べ、複合化の場合は施設間の渡り配管分を減じることができます。

※複合化による設備機器のコスト縮減

項目	単体	複合	コスト	
機械設備	空調	熱源機：2台	熱源機：1台	約2割減
	給排水	受水槽・ポンプ：1台		渡りの配管が減
	消火	消火ポンプ：1台		渡りの配管が減
電気設備	受変電	キュービクル：2台	キュービクル：1台	約2.5割減
	幹線			渡りの配線が減
	非常用発電機	非常用発電機：2台	非常用発電機：1台	約3割減

4. レイアウトイメージ



※コア…階段、E V、トイレ等の共用部をいいます。